

児童クラブだより

第113号

2025年3月6日

特集

みんなあつまれ 心を動かされる 体験の共有

～友だちや仲間がいることの大切さ～

児童クラブで過ごす中で“友だち関係”について、“仲良くできているのかな”と心配されたことがある方も多いのではないのでしょうか。

児童クラブで共に過ごした「楽しい嬉しい時間」や、「悔しい悲しい時間」を友だちや仲間と共有していくことで心が育まれていきます。

今号では、何気ない友だちとのやり取りの中で生まれる“心がふと動く瞬間やきっかけ”について特集します。

特集

心を動かされる体験の共有 ～友だちや仲間がいることの大切さ～

お互いの心が 近くなる・遠くなる体験



児童クラブの子どもたちに **友だちや仲間の存在** について質問をしたところ「(自分と) 意見が同じだと嬉しい・安心する」、「一緒に頑張る・喜び合える」、「ダメな時に、ダメと言ってくれる・言い合える」等の意見が出ました。

毎日繰り返される遊びの時間に、子どもたちの言葉から様々な関係性が見えてきます。

例えば「ドッジボールしよう!」と誰か提案をすると、すぐに「いいね!」と仲間が集まります。一方、楽しく遊んでいても自分の我を譲らず、ルールを守れない時には「おかしいぞ!」とぶつかり合い、仲間に入れなくて心が淋しくなる日もあります。こうした楽しいことや悲しいことも心が動く体験です。

子どもたちは、自分の心と向き合い、相手のことを思いやり、心を感じる力を育んでいきます。そして様々な体験を重ねて、お互いがとても大切な存在だということを知っていきます。



「これおいしいよ! 食べてみて」、「それ私も大好きなんだ〜」おやつの時間に聞こえる会話です。

ある日、「野菜の煮物」を提供した時のエピソードです。お迎えに来られた保護者から「えっ?うちの子が煮物を食べたんですか!」と、とても驚かれました。

「よく食べることができたね」と声を掛けると「友だちがおいしそうに食べるのを見ていたら、食べてみようかなと思ったの!」と、自慢気な子どもの姿がありました。

何気ないことのようにですが、友だちや仲間の言葉には、一步を踏み出すきっかけや、挑戦してみようという気持ちにする力があるようです。

何気ない日常の体験から ～心が動く瞬間～



児童クラブという 大きな共通点

「児童クラブに入所している」そのこと自体が共通点であり、同じ思い出を持つ仲間なのだと思います。

児童クラブでは、家族以外の多くの人と知り合います。お迎えに来られた他の保護者の方に「ねえ、見て、見て!」と駆け寄り姿や「今日〇〇君が、すごかったんだよ〜」と、自分のことのように友だちの話をすることがあります。

児童クラブに来れば、ひとりじゃない、みんながいるよ!という気持ちで私たち指導員は、子どもたちの帰りを待っています。



みらぞう君が児童クラブにやってきた 23



合同

低学年も一緒に楽しもう！ フットベース練習の様子 の巻

～つばさ・はばたき児童クラブ（辻堂小学校区）～

ある日の夕方、みらぞう君は「つばさ児童クラブ」「はばたき児童クラブ」のフットベースの合同練習を見に行きました。辻堂小学校のグラウンドに到着すると、ゲーム形式の練習を始めるところです。さて、どんな練習が始まるのかな？



ゲームがスタートすると聞こえてきたのは **蹴ってー！ 走ってー！** という上級生の声。まだゲームに慣れていない低学年のお友だちの、**キックしたら一塁に向かって一生懸命走る姿**にみんなで声援を送っていました。

ルールはまだ気にしないで良いよ と、クラブ長。お友だちがアウトになっても、**ナイスチャレンジ！** と励ましの声がかけていました。

練習の終盤、クラブ長が「全員に蹴らせてあげて良い？」と、ピッチャーに確認。

低学年がアウトを気にせず安心して蹴ることができる工夫に、「いいよ！」と気持ちよく応じていました。

最後は上級生の「あ、まだ挨拶してないじゃん」「気を付け～！礼！」に合わせて、全員で「ありがとうございました」と元気よく挨拶。とても清々しい雰囲気でした。

つばさ児童クラブ・はばたき児童クラブは児童館も含め、毎日近くで過ごす**きょうだいクラブ**です。両児童クラブのお友だちが混ざり合いながら、**フットベースの楽しさ**を低学年に体験してもらったり、相手を傷つけるような言葉を使わないようにしたり、**お互いの気持ちを大切にしている**ところが素敵だな、と感じたみらぞう君でした。



みらぞう君が
低学年のお友だちに
聞いてみました

フットベースを
やっているとき、
どんな気持ち？

ドキドキする～！

蹴って、突っ走って、
点をとるのが楽しい！



異学年でフットベースを楽しむ工夫として
以下のような取り組みもしています

- 野球盤（ボードゲーム）を使ったルール確認
- 出塁した低学年に高学年が伴走しながら動きを教える

みらぞう君、次は
どこの児童クラブに？
お楽しみに♪



生きる力、 心の豊かさを育む

自然体験活動

児童クラブでは年間の活動に自然体験活動を取り入れています。

今年度、そよかぜ児童クラブ（天神小・六会小区）では、地域の中にある石川丸山谷戸での「田植え・稲刈り体験」「蛍の鑑賞会」が実施されました。6月の田植えでは泥の冷たさや、足元がとられる感覚に驚いたり楽しんだりする子どもたち。9月にはすっかり泥も乾いた田んぼの稲を、鎌を使って緊張しながらもテキパキと刈る姿がありました。豊かな自然の中で蛍の輝きにカエルにヤゴ…小さな命に出会う感動もみんなでも共有しました。

今後も児童クラブでは自然体験活動を通じ、自然と親しむ感性の育ち、仲間と学び協働する嬉しさ、自然との共生意識を深める機会を大切にしていきます。



1月25日(土)

藤沢市みらい創造財団の
4クラブが参加しました

ストリートパフォーマンス

小羊・かわせみ・ぽてんこ・ひだまり(発表順)

今年で4回目となるストリートパフォーマンスを藤沢駅さいか屋地下ギャラリー前にて実施しました。

当日は、けん玉披露だけではなく、日常の活動から展開したダンス、こま、皿まわしやバトンを組み合わせた演技など、様々な思考を凝らしたパフォーマンスを行いました。

藤沢の街で、観ているみんなが笑顔になるような取り組みになりました。



ぽてんこ児童クラブ



かわせみ児童クラブ



小羊児童クラブ



ひだまり児童クラブ

編集後記

紙面を読んでもくださったみなさんに「児童クラブで大切にしていること」「児童クラブで経験できる、学年をこえた取り組みの良さ」「子どもたちが笑顔になれる瞬間など」を中心に、年3回の児童クラブだよりを作成してきました。今後も、藤沢の児童クラブの子どもたち・保護者・学校・地域の方々とともに、「子どもが真ん中で育て合い」を合言葉に子どもたちに寄り添いたいと思います。

佐々木(いるか)、井上(風の子)、飯森(かもめ)、小野寺(さくらんぼ)



公益財団法人

藤沢市みらい創造財団

〒251-0054

藤沢市朝日町10-8 藤沢青少年会館内
放課後児童育成課

TEL 0466-21-6709

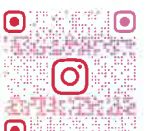
FAX 0466-28-0009

URL <https://www.f-mirai.jp>

E-mail jidouclub@f-mirai.jp



Instagram ↓



MIRAZO000